

論文番号 259

担当

札幌医科大学 医学部 薬理学講座

題名 (原題/訳)

Ethanol patch test: a simple method for identifying the effectiveness of cyanamide in alcoholics.

エタノールパッチテスト: アルコール依存症者におけるシアナマイドの有効性を鑑定する簡便法  
執筆者

Yamauchi M, Kimura T, Takeda K, Sakamoto K, Ohata M, Tabe T, Nakano K, Fujiwara S, Takao Y, Toda G

掲載誌 (番号又は発行年月日)

Alcoholism Clinical and Experimental Research 24 (Suppl 4): 34S-38S (2000)

キーワード

アルコール依存症、エタノールパッチテスト、シアナマイド、アセトアルデヒド脱水素酵素、ALDH2

要旨

アルコール依存症に対する抗酒剤であるシアナマイドのアセトアルデヒド脱水素酵素 2 型 (ALDH2) 活性阻害作用の効果発現の指標としてエタノールパッチテストを応用し、適正なシアナマイド投与量を決定する方法としての有用性を検討した。対象はアルコール依存症患者 144 名。エタノールパッチテストはパッチプラスターに 100  $\mu$ l の 70%エタノールを浸透させ、上腕内側に 7 分間付着後に剥がして 10~15 分後に測定した。エタノールパッチテストは 2 週間断酒した患者に 1 週間の間隔でシアナマイド投与前後で行った。シアナマイドの投与はパッチテストが陽性となるまで増量し、パッチテストが陽転化した量を適正量とした。シアナマイド投与前のパッチテストで 36 名 (25%) の患者が陽性を示し、ALDH 2\*1/2\*2 (mutant heterozygote) と考えられた。シアナマイド投与前陰性であった 108 名の患者でパッチテストが陽転化したシアナマイドの投与量は 30 mg、42 例 (38.9%); 50 mg、33 例 (30.6%); 70 mg、5 例 (4.6%); 100 mg、6 例 (5.6%); 150 mg、2 例 (1.9%) であった。肝硬変の合併率は 50 mg 以下のシアナマイドで陽転化した群の方が、70 mg 以上で陽転化した群よりも高かった ( $P=0.029$ )。シアナマイドの副作用の出現頻度は 70 mg 以上での陽転群よりも 50 mg 以下での陽転群の方が低かった ( $P=0.002$ )。これらの結果から、アルコール依存症者において、エタノールパッチテストによるシアナマイド投与量の決定は、最小有効量を知ることができ、さらに副作用出現防止つながらる有効な方法であると考えられる。